

高岡市民の交通実態に関するアンケート調査（概要版）

I. 実施概要

対象：令和2年7月1日時点で高岡市内に居住する16歳以上の市民1,000人
 抽出方法：住基データに基づく地区別の男女構成比および年齢10歳階級構成比により抽出
 実施方法：アンケート票の郵送、同封の返信用封筒にて回収
 調査期間：8月1日（土）～25日（火）

II. 回収数、回収率

配布した1,000人のうち390人から回答があり、回収率は39.0%である。

	配布数（人）	回収数	回収率（%）
今回（R2年度）	1,000	390	39.0
前回（H25年度策定時）	1,000	376	37.6

III. 集計

1. 回答者の年代

年代	今回（R2年度）				前回（H25年度）			
	回答数	回答数 構成比	市内人口 構成比(参考)	回答率	回答数	回答数 構成比	市内人口 構成比(参考)	回答率
10歳代	18	4.6%	8.3%	27.7%	21	5.6%	9.0%	33.9%
20歳代	21	5.4%	8.9%	19.1%	22	5.9%	9.2%	19.1%
30歳代	31	8.0%	10.0%	25.0%	42	11.3%	12.2%	27.1%
40歳代	55	14.1%	14.3%	29.9%	39	10.5%	13.2%	23.5%
50歳代	68	17.5%	12.5%	44.4%	68	18.2%	11.8%	44.2%
60歳代	84	21.6%	13.0%	51.5%	102	27.3%	16.3%	50.0%
70歳代	112	28.8%	15.5%	55.7%	79	21.2%	12.0%	54.9%
合計	389	100.0%	—	—	373	100.0%	—	—

◇年代別の人口構成比に応じてアンケートを送付しているため、H25調査では60歳代からの回答数(27.3%)が最も多かったが、R2調査では団塊世代が60歳代から70歳代に移行したことから、70歳代からの回答数(28.8%)が最も多くなった。回答率でも年代が高くなるにつれて上昇する傾向が見られ、前回ともに60～70歳代が50%を超えていることから、高齢者の意見が色濃く出ているアンケートとなっている。

2-1. 運転免許証および自動車の保有

	今回（R2年度）		前回（H25年度）	
免許を持っており、かつ、自由に使える自動車を保有している	330	85.9%	289	78.1%
免許を持っているが、自由に使える自動車はない	13	3.4%	17	4.6%
免許を持たない	41	10.7%	64	17.3%
合計	384	100.0%	370	100.0%

◇「免許を持っており、かつ、自由に使える自動車を保有している」と回答した率は、H25調査では78.1%であったのに対し、R2調査では85.9%と7.8%上昇しており、運転免許証の保有率および自動車保有率が高まっている。

2-2. 運転免許証および自動車の保有（年代別）

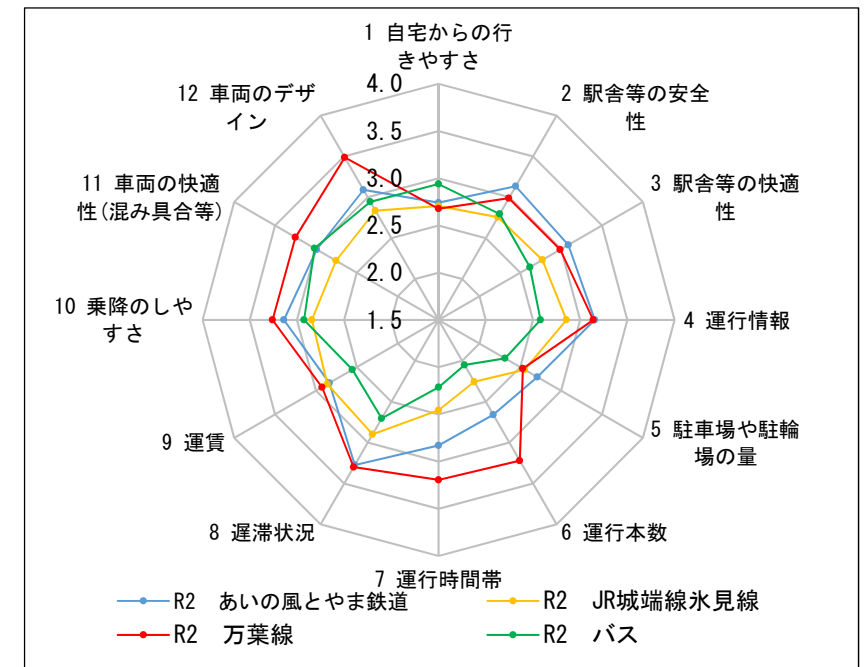
	年代							合計
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
1 免許保有・自動車保有	11.1%	90.5%	100%	96.4%	92.6%	93.8%	78.2%	85.9%
2 免許保有・自動車なし	16.7%	4.8%	0.0%	0.0%	2.9%	2.5%	4.5%	3.4%
3 免許なし	72.2%	4.8%	0.0%	3.6%	4.4%	3.7%	17.3%	10.7%
R2 免許保有合計	27.8%	95.2%	100%	96.4%	95.6%	96.3%	82.7%	89.3%
H25 免許保有合計	5.3%	100%	97.6%	94.9%	97.0%	91.2%	59.5%	82.7%

◇年代別に見てみると、20～60歳代の90%以上が運転免許証と自動車を保有し、70歳代でも78.2%が運転免許証と自動車を保有している。運転免許証保有率はH25年調査と比べ全体で6.6%上昇しており、特に10歳代と70歳代が約23%上昇している。モータリゼーションは前回調査時から着実に進展しており、加えて団塊世代の高齢化によって高齢ドライバーの増加が伺える。

3. 公共交通利便性満足度

◇各公共交通機関の12項目平均値は上位から万葉線：3.08（前回+0.12）
 あいの風とやま鉄道：2.97（前回+0.16）
 JR城端線・氷見線：2.71（前回+0.06）
 バス：2.64（前回-0.03）
 となっており、総合平均は「2.85（前回+0.08）」とH25調査から上昇した。
 ◇万葉線は15分間隔の運行やドラえもんトラムのラッピング電車の運行により評価を高めており、バスは路線統廃合の影響もあり、運行本数や運行時間帯への評価を下げた結果となった。

※各公共交通に対する12項目の設問について、「大変満足」を5点、「満足」を4点、「普通」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として集計し平均値を比較。



4. 公共交通利用率（各移動目的ごとに移動手段を3つまで回答）

交通手段	通勤通学	通院等	買い物	旅行等	計
徒歩	31	23	63	40	157
自転車	23	21	57	35	136
原付バイク	1	1	1	6	9
自動車（運転）■	201	194	298	243	936
自動車（同乗）■	13	31	74	88	206
鉄道・万葉線●	16	5	11	31	63
路線バス●	8	3	6	5	22
タクシー●	1	3	3	0	7
自動車…A ※■印	214	225	372	331	1142
公共交通…B ※●印	25	11	20	36	92
母数（回答者数）…C	234	228	345	292	1099
R2調査の自動車利用率…A/C	91.5%	98.7%	107.8%	113.4%	102.8%
H25調査の自動車利用率	91.6%	98.2%	104.1%	110.3%	101.0%
R2調査の公共交通利用率…B/C	10.7%	4.8%	5.8%	12.3%	8.4%
H25調査の公共交通利用率	12.6%	7.8%	7.6%	16.9%	11.2%

◇H25調査と比較してすべての公共交通利用率が下落し、総合平均は「8.4%（前回-2.8%）」となった。
 ◇外出目的ごとの公共交通利用率は、上位から「旅行等：12.3%」、「通勤・通学：10.7%」、「買い物：5.8%」、「通院等：4.8%」となっており、旅行等の広域移動の際の公共交通利用率が最も高く、買い物や通院等の地域移動の公共交通利用は低い結果となっている。各外出目的ともに自動車利用率は高く推移しており、モータリゼーションの進展が伺える。

5. 高岡市の公共交通に対する意見（自由記述 ※アンケート回答者390人の内、128人からの意見）

自由記述へ意見があった128人の内、70歳代は27%、60歳代と50歳代がそれぞれ22%であった。
 ◇高齢者や障がい者等の移動手段の確保に関する記述が31件と最も多く、「高齢者に優しい公共交通体系の実現を望む」との意見が23件あった。
 ◇次いで、路線バスに関する意見が30件あり、そのうち、「運行本数やバス停を増やしてほしい」が6件、「車両のダウンサイジングによる運行効率化を図るべき」との意見が12件あった。
 ◇そのほか、「新高岡駅方面への万葉線の延伸」が6件、「H30年度に運行終了したコミュニティバスの代替交通手段の導入」が13件など、公共交通の拡充を求める意見がある一方で、「現在は自動車を利用しているため困っていないが、高齢者になった時や運転できなくなった時のために公共交通を維持してほしい」という趣旨の意見は28件あり、年齢も30歳代から70歳代まで幅広い層に渡っている。将来に不安を感じながらも、現在の移動手段の中心は自家用車であることが伺える。